

《履修上の留意事項》本演習を履修するためには、2年次開講科目である心理的アセスメントの単位を修得していることを要する。また、本演習の単位を修得していないものは4年次開講の心理実習を履修することができない。
公認心理師国家試験を受験するためにはこの単位は必須科目である。
履修希望者が30名を超えた場合は、一部の演習を6講目以降に開講することがある。

《担当者名》○富家 直明、野田 昌道、百々尚美、柳生 一自、金澤 潤一郎、本谷 亮、今井 常晶、西郷 達雄、関口 真有、金山 裕望

【概要】

公認心理師に関する知識及び技能の基本的な水準の修得を目的とし、次の(ア)から(オ)までに掲げる事項について、具体的な場面を想定した役割演技(ロールプレイング)を行い、かつ、事例検討で取り上げる。

- (ア) 心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得
 (1) コミュニケーション (2) 心理検査 (3) 心理面接 (4) 地域支援 等
 (イ) 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成
 (ウ) 心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチ
 (エ) 多職種連携及び地域連携
 (オ) 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解

【学修目標】

公認心理師に必要な知識および技能を修得する。
 支援を要するものを理解し、ニーズを把握し、支援計画を作成できる。
 支援を要する者へのチームアプローチを学ぶ。
 多職種連携と地域連携を学ぶ。
 公認心理師の職業倫理と法的義務を学ぶ。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1・2	動機づけ面接法	ロールプレイ、ワークを通して、動機づけ面接法について学ぶ。	富家 直明 (関口 真有)
3・4	動機づけ面接法	ロールプレイ、ワークを通して、動機づけ面接法について学ぶ。	富家 直明 (関口 真有)
5・6	動機づけ面接法	ロールプレイ、ワークを通して、動機づけ面接法について学ぶ。	富家 直明 (関口 真有)
7・8	動機づけ面接法	ロールプレイ、ワークを通して、動機づけ面接法について学ぶ。	富家 直明 (関口 真有)
9・10	WISC-IV	WISC-IVについて、学生相互で実施し、レポートを作成する。	富家 直明 (金澤 潤一郎)
11・12	WWISC-IV	WISC-Vについて、演習を通して実施法を習得し、結果の集計と解釈、レポートの作成を学ぶ。	富家 直明 (金澤 潤一郎)
13・14	大人の発達障害	大人の発達障がい支援について、ロールプレイを用いた事例検討を行う。	富家 直明 (金澤 潤一郎)
15・16	インテーク面接	インテーク面接について、ロールプレイを用いた事例検討を行う。	富家 直明 (本谷 亮)
17・18	リラクゼーション法	リラクゼーション法について、ロールプレイを用いた事例検討を行う。	富家 直明 (本谷 亮)
19・20	認知再構成法	職業倫理、法的義務について、集団討議などを用いた事例検討を行う。	富家 直明 (本谷 亮)
21・22	チームアプローチ	復職支援について、ロールプレイを用いた事例検討を行う。	富家 直明 (本谷 亮)
23・24	投映法 (描画法)	風景構成法およびスキュレル法について学び、学生相互で実施する。描画法におけるPDI(描画後面接)の意義について体験的に学ぶ。	富家 直明 (野田 昌道)
25・26	投映法 (TAT/EMP)	絵画物語投映法として、TAT(主題統覚検査)とEMPを	富家 直明

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		体験する。事例をもとに、ケースの見立て、概念化について学ぶ。	(野田 昌道)
27・28	投映法 (ロールシャッハ・テスト)	ロールシャッハ・テストを学生相互で実施し、プロトコルを作成する。	富家 直明 (野田 昌道)
29・30	機能的アセスメント	機能的アセスメントについて、ロールプレイを用いた事例検討を行う。	富家 直明 (金山 裕望)
31・32	機能的アセスメント	機能的アセスメントについて、ロールプレイを用いた事例検討を行う。	富家 直明 (金山 裕望)
33・34	スクールカウンセリング	ロールプレイ、ワーク通して、スクールカウンセリングについて学ぶ。	富家 直明 (西郷 達雄)
35・36	スクールカウンセリング	ロールプレイ、ワーク通して、スクールカウンセリングについて学ぶ。	富家 直明 (西郷 達雄)
37・38	個別支援計画	ニーズの把握と個別支援計画の作成について事例検討を通して理解する。	富家 直明 (今井 常晶)
39・40	乳幼児対応技術	乳幼児とのコミュニケーション技術について、ロールプレイを通じて学ぶ。	富家 直明 (今井 常晶)
41・42	発達検査・知能検査	田中ビネー知能検査Vについて、学生相互で実施し、レポートを作成する。	富家 直明 (今井 常晶)
43・44	発達支援事例	発達支援について、ロールプレイを用いた事例検討を行う。	富家 直明 (今井 常晶)
45・46	小児精神医学	小児精神医学について、事例検討を行う。	富家 直明 (柳生 一自)
47・48	小児精神医学	小児精神医学について、事例検討を行う。	富家 直明 (柳生 一自)
49・50	小児精神医学	小児精神医学について、事例検討を行う。	富家 直明 (柳生 一自)
51・52	積極的傾聴技法	積極的傾聴技法の練習を行う。	富家 直明
53・54	積極的傾聴技法	ロールプレイを通じて積極的傾聴技法を体得する。	富家 直明
55・56	倫理的葛藤	倫理的葛藤場面における公認心理師の対応を学ぶ。	富家 直明
57-60	客観的臨床能力試験 (OSCE)	講義内試験であるOSCEを行って、演習を通して獲得した臨床能力を評価する。	富家 直明 (西郷・野田・金澤・金山)

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部(研究科)、学校の授業実施方針による

【アクティブ・ラーニング】

導入している

【評価方法】

各講義内の発表、小テスト、レポートの合計を60点、OSCEを40点、計100点で評価する。

【備考】

演習は15名以内を1グループとし、ローテートして行うため、講義内容の順序はグループによって異なる。
詳しい日程表は別途配布する。

【学修の準備】

各演習の事前配布資料、マニュアル等を熟読し、理解すること(80分)。

講義内容を復習し、該当文献を収取した上で、レポートを作成する(80分)。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP3. 社会の様々な分野において、心の問題を評価し、それを適切に判断し援助できる基礎的技能を修得している。

DP1. 心の問題にかかわる職業人として必要な幅広い教養と専門的知識を修得している。

上記、心理科学部ディプロマ・ポリシーに適合している。

【実務経験】

全員、公認心理師の資格を有している

【実務経験を活かした教育内容】

心理臨床家としての経験を生かした事例を作成し、臨場感ある検討を行う。